

つどい、便り

2月

令和5年 2月
110号

まだまだ寒い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。2月は節分が大きな行事で、今年も豆まきやおいしい献立を考えていますので楽しみにして下さいね。毎年つどい便りでは節分の事を書いているように思いますので、今回は「春一番」についてお話ししたいと思います。

春一番は、春先に初めて吹く強い南風のことをいいます。

気象庁には春一番の定義があります。地域によって少し異なるので、近畿地方の定義を紹介します。

立春(2月4日頃)～春分(3月20日頃)の間に、低気圧が日本海にあって、南よりの最大風速が8m/s以上となり、最高気温が平年(または前日)より高くなった初めての日に、気象状況を総合的に判断しているそうです。

では、春一番が吹くとどうなるの？

事故を招くことがあるため、春一番には注意が必要です。春一番は、寒い冬が去り、暖かい春の到来を告げてくれる風ですが、明るい語感とは異なり、竜巻などの突風を伴うため海難事故が起こったり、気温が急に上がるので雪崩を起こしたり、フェーン現象で大火を引き起こしたりすることがあります。

春一番ということばが広がった理由は？

この悲惨な事故を知った民俗学者の宮本常一(みやもとつねいち)が、1959年(昭和34)年に出版された『俳句歳時記』(平凡社刊)で、「春一番(仲春)【解説】吉岐で春に入り最初に吹く南風をいう。この風の吹き通らぬ間は、漁夫たちは海上を恐れる。」と解説しました。その後、報道機関が「春一番」ということばを使い始め、気象庁が「春一番」を定義したことで、定着していきました。と言うことだそうです。「春一番」と聞くと、キャンディーズを思い出しますが、何年前だったのでしょうか？「雪が溶けて川になって流れて行きます。つくしの子がはずかしげに顔を出します。もうすぐ春ですね。ちょっと気取ってみませんか〜♪」でしたよね。ああ、春が待ち遠しいです。

つどい写真館



大吉！



おみくじも引きました。何かな？



新型コロナウイルスの流行により、昨年同様手作り神社(ふじの里神社)にて参拝しました。お賽銭も入れ、その後はおみくじを引きました。大吉が数名出て喜びました。来年こそは近くの神社に行きたいですね♪

